

<h1 style="font-size: 2em;">指導資料</h1> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: left;"> <p>鹿児島県総合教育センター</p> <p>平成29年4月発行</p> </div> </div>	<h1 style="font-size: 2em;">外国語 第83号</h1>	
	<p>対象 校種</p>	<p>幼稚園 小学校 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中学校</span></p> <p>高等学校 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">特別支援学校</span></p>

## 英語で自己表現できる生徒の育成を目指す学習指導の工夫 — 技能統合型の学習活動を通して —

英語で自分の考えなどを話したり書いたりする力を育成するためには、目指す生徒の姿を明確にして4技能を統合的に活用する活動を効果的に取り入れることが大切である。そこで、英語で自己表現できる生徒を育成するための技能統合型の学習活動について具体例を通じて示す。

### 1 自己表現力の育成に向けた指導改善の要点

外国語科におけるコミュニケーション能力の育成を図る学習過程は、次のように表すことができる。

- 1 単元や1単位時間におけるコミュニケーションの目的を理解する。
- 2 学習目標の設定を通して、コミュニケーションの目的に応じた発信までの方向性を決定し、言語活動等の見通しを立てる。
- 3 目的達成のための言語活動を行う。
- 4 言語・内容の両面におけるまとめと振り返りを行う。  
(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」補助資料を基に作成)

英語で自己表現できる生徒を育成する授業づくりを行うにあたっては、このような学習過程の中で、生徒が実際に英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする言語活動をバランスよく計画的・系統的に行うことが大切である。

文部科学省は、「平成27年度英語力調査」の結果を受け、外国語表現の能力に関する指導改善の要点を次のように示している。

- 「話すこと」
- 生徒に話す活動をさせた後は、それで終わらず、必ず教員からフィードバックをしたり、生徒が振り返ったりする機会を設ける。
  - まずは簡単なチャットから、即興的なやりとりを行う機会を増やす。
  - 話す活動を段階的に行うにあたっては、表現の例や会話を展開するための話の流れのフォーマットを提示する。
  - 生徒にとってできるだけ興味・関心のある話題・内容を扱い、「相手に伝える」ことを重視した活動とする。
- 「書くこと」
- 英文を書く機会を増やす工夫を行う。
  - 文脈に沿った内容を書く指導の工夫を行う。
  - 求められている内容を適切に表現し、読み手に伝わる英文を書く指導の工夫を行う。  
(「平成27年度英語教育改善のための英語力調査事業(中学校)報告書」p.21から抜粋)

本調査では、特に、「与えられた話題について、即興で話す活動」や「英語でのスピーチやプレゼンテーション」、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」を授業で多く経験した生徒ほどテストスコアが高いという結果も示されている。これらの結果等を踏まえ、英語による自己表現力を高めるために、更なる指導の充実が求められる。

## 2 目標とする表現例の明確化

外国語科においては、4技能の育成に関して育てたい生徒の姿を、CAN-DOリストの形での学習到達目標として明確にすることが求められている。

CAN-DOリストに示される能力は、教科書の内容だけを理解する力や、授業で与えられた題材のみについて表現する力ではない。初めての場面や英文に接した時でも、知識・技能を活用して必要な情報を理解したり表現したりする力である。

授業では、各能力が中学校卒業までに身に付くよう、意図的、計画的に指導する必要がある。そのためには、「中学校卒業時に、各能力を発揮した生徒の姿」を具体的に想定することが大切である。例えば、「話すこと」における「自分の好きなものについて理由を含めて紹介できる。」という能力については、中学校卒業時点で表現させたい英文として、以下の表現が考えられる。

I'm going to tell you about my baseball glove.  
 My father gave it to me on my birthday. I like it because the size is fine and the color is my favorite.  
 I like baseball the best of all sports. I want to be a professional baseball player in the future. I have played baseball for three years. My teacher always says, "It's important to take care of things you use."  
 I always clean my glove after practice.  
 I have a baseball game next Sunday. It is held in our schoolyard. I hope you can come and see us.

教科書どおりに授業を行うだけでは、このような文章が書ける能力を育成することは難しい。しかし、教師が3年間の指導を見通して、目指す表現例を事前に想定していれば、各英文や文章構成についての知識・技能を身に付けさせる指導を具体化することが可能となる。

## 3 自己表現力の育成を図る指導上の留意点

指導に際して、計画及び実践、評価の各段階で留意すべき点は、次のとおりである。

表 自己表現力育成を図る指導上の留意点

段階	指導上の留意点
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の各単元の内容を確認し、3年間のどの時期にどのような力を身に付けさせるかを明確にする。</li> <li>CAN-DOリストの各項目と単元との関連付けを行う際、一つの項目に複数の単元が対応するようにする。</li> </ul>
実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容を習得させるだけでなく、初めて読んだり聞いたりする英語を理解したり、様々な場面において、あるいは、異なる相手に対して適切に表現したりすることができる技能を身に付けさせるための学習活動を展開する。</li> <li>特定の技能に偏るのではなく、4技能を統合的に活用する活動を行う。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>各能力が身に付いているかを確認するためのパフォーマンス評価を計画的に行う。</li> </ul>

例えば、2で想定した英文を表現できる能力を育成するために、まず計画の段階では、必要な言語材料や文章構成に関する知識及び表現の技能を、3年間で何回、どの時期に指導するのかを明らかにする。その際、外国語活動で扱う表現があることを踏まえ、小・中学校の円滑な接続も視野に入れて学習内容を関連させる視点をもつことが大切である。

次に、実践の段階では、言語材料とともに、場面や相手に応じて適切な文章を構成する力を身に付けさせる指導を行う。なお、その際、相手の考えを理解する力や、相手の立場に応じて表現を選ぼうとする態度の育成等を図ることに留意したい。

具体的な例としては、ALTからのメッセージを受けて、自分の好きなものを紹介させる活動が考えられる。読んだり聞いた

りしたことを基に相手意識をもって英語で表現させることにより、生徒は4技能を総合的に高める活動を経験することができる。

最後に、評価の段階では、スピーキングテストで、授業と同じ内容だけではなく、類似した状況における表現を言わせたり、定期考査で書かせたりするなどのパフォーマンス評価を通して、知識・技能が実際に活用できるかを評価することが大切である。

#### 4 自己表現力の育成を図る指導の実際

##### (1) 知識・技能の習得と活用に焦点を当てた指導

知識・技能を活用できるようにするには、教師の説明や機械的な練習を設定するだけでは不十分である。知識・技能は、コミュニケーション場面で実際に使うことができることを生徒自身が実感をもって味わったり、誤りや言い間違いを修正したりすることを通して習得が促進され、活用できるものになるからである。

また、授業では、言語材料の「意味」・「形式」・「機能」の定着を同時に求めたり、音声指導が不十分なうちに文字指導に移ったりしないようにする。実態に即して活動の難易度や負荷を少しずつ高めることにより、生徒に達成感を味わわせ、意欲を高めることを心掛けたい。

##### (2) 理解から表現につなぐ指導

内容理解の活動では、発問を通して英語を繰り返し聞かせたり読ませたりするとともに、英語で考えさせたり答えさせたりすることにより、知識・技能を活用しながら理解を深めさせることが大切で

ある。情報を整理するための発問（事実発問）に加え、直接示されていない情報を読み取らせるための発問（推論発問）など、習熟度や理解度に応じて理解が深まるよう、多様な発問を行いたい。

内容理解の活動を通して言語材料の定着を図ったり、発展的な言語活動を充実させたりする上で有効な手法の一つが、音読指導である。例えば、以下のようなワークシートを作成し、教師やペアの相手の後に続けて英文を読ませたり、英語を聞いて対応する日本語を答えたり、日本語を聞いて対応する英語を言わせたり、語句の一部を変えて即興的に言わせたりするなどの活動を行うことが考えられる。

英文	日本語訳
I'm going to tell	僕は伝えます
you	あなたに
about my baseball glove.	僕の野球グラブについて
My father gave	父が与えました
it	それを
to me	僕に
on my birthday.	僕の誕生日に
I like	私は好んでいます。
it	それを

図 音読用ワークシートの例

この方法によれば、音読の繰り返しを通して理解や習熟を図ることができる事項の解説を省略するなど、教師主導の時間を最小限に抑えることができる。また、生徒に語句のまとまりや語順を意識させることができるため、音読を表現活動に結び付けることにもつながる。

音読指導は、生徒が自律的に学習できるようにする視点からも重要である。自分で正確かつ適切に音読できる力が身に付くよう指導したい。

(3) 自己表現力の育成を図る授業展開例

ここでは、説明文の内容理解をした後に、オーストラリア出身のALTに自分の好きなものを紹介するという第2学年3学期の活動例を紹介する。

ア 表現させたい英文例

授業に先立ち、2で例示した英文を基に、目指す表現例を作成する。

I'm going to tell you about my baseball glove.  
 My father gave it to me on my birthday. I like it because the size is fine and the color is my favorite.  
 I like baseball the best of all sports. I want to be a professional baseball player in the future.  
 I hear that cricket is more popular in Australia. Please tell me about them.  
 I have a baseball game next Sunday. I hope you can come and see us.

イ 単元の指導計画

第6次にアのような英文が書けるようにするための指導計画を立てる。

次	主な学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題の把握と学習の見通しの確認</li> <li>本文の概要把握と新出単語の理解</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本表現の理解、練習</li> <li>本文の内容理解① (T-F)</li> <li>自己表現活動① (スピーチの始めの表現 [I'm going to...など] の作成)</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本表現の理解、練習</li> <li>本文の内容理解と音読② (事実発問)</li> <li>自己表現活動② (ものを描写、説明する表現 [形容詞、副詞、比較表現など] の作成)</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本表現の理解、練習</li> <li>本文の内容理解と音読③ (事実発問)</li> <li>自己表現活動③ (印象や感想を述べる表現 [I like...など] の作成)</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本表現の理解、練習</li> <li>本文の内容理解と音読④ (推論発問)</li> <li>自己表現活動④ (接続詞を含む表現 [and, but, because, thatなど] の作成)</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己表現活動⑤ (①~④の英文を基にしたまとまりのある文章の作成)</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表</li> <li>単元の学習の振り返り</li> </ul>

第1次では、生徒に本単元の課題と、その解決に向けた見通しをもたせることを特に大事にする。第2次から第6次では、言語材料の定着とともに、教科書本文の内容理解を行う。個々の学びを関連させた上で、単元終末の表現活動が行われるような展開を心掛ける。

ウ 第6次の指導計画

週	生徒の活動	指導上の留意点
導入	1 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元に関連付ける。</li> <li>短時間で行う。</li> <li>キーワードを基にした英文再生をさせる。</li> <li>目標達成に向けて、どのような文章構成になればよいかを確認し、見通しをもたせる。</li> </ul>
	2 基本表現の復習	
	3 教科書本文の音読	
	4 学習目標の確認 ○○先生に自分の好きなものを紹介しよう	
展開	5 英文の構成 (個) <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに書いた表現を元に文章を構成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スムーズに発話できるように、口頭での練習を中心に行わせる。</li> <li>ペアの相手を変え、複数の相手に伝えさせ、助言をもらうようにする。</li> <li>修正は原稿に追記する程度に止め、口頭練習を多めに行わせる。</li> <li>順番に発表し、互いに助言させる。</li> <li>助言を踏まえ、これまで発話したことを修正しながらワークシートに書かせる。</li> <li>書き終わったら発表の練習をさせる。</li> </ul>
	6 表現活動Ⅰ (ペア) <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアの相手に口頭で発表し、互いに助言する。</li> </ul>	
	7 英文の修正 (個) <ul style="list-style-type: none"> <li>助言を基に英文の修正を行う。</li> </ul>	
	8 表現活動Ⅱ (グループ) <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で発表し、互いに助言する。</li> </ul>	
	9 英文の完成 (個) <ul style="list-style-type: none"> <li>助言を基に英文を完成させる。</li> </ul>	
	10 活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカードに記入する。</li> </ul>	
終末	11 挨拶	活動を通して気付いたことや、友達の助言から学んだことを中心に振り返らせる。

9の活動の後に、書いた英文をペアやグループで読んで助言し合う活動なども考えられる。生徒が協働的に学ぶ活動形態の工夫も積極的に行いたい。

各学校においては、以上の留意点や指導例を踏まえ、4技能を統合的に活用する活動を通して、生徒の自己表現力を高めていくための実践を充実させていきたい。

－ 引用・参考文献 －

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』平成20年8月
- 文部科学省『平成27年度英語教育改善のための英語力調査事業 (中学校) 報告書』平成28年3月
- 文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」平成28年12月
- 田中武夫編著『推論発問を取り入れた英語リーディング指導』平成23年、三省堂

(教科教育研修課)